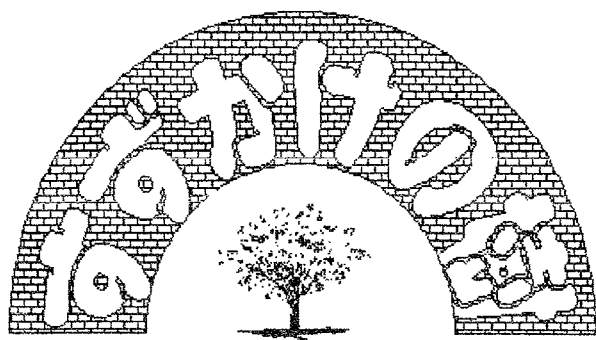




2018. 6. 30 発行 No.141

社会福祉法人 すずかけ福祉会

すずかけ共同作業所

愛知県小牧市南外山間島15-1 Tel.0568-71-3644 fax.0568-71-3649

さらん

愛知県小牧市小針2-356-2 Tel.・fax0568-75-3991

すずかけホームそよ風・すずかけホーム虹の家

愛知県小牧市南外山間島81 Tel.・fax0568-76-8151

すずかけホーム青空・すずかけホーム太陽

愛知県小牧市小針2-356-1 Tel.・fax0568-75-2888

ヘルパーステーションとなり

愛知県小牧市小針2-356-1 Tel.0568-90-0111 fax0568-90-0112

新年度 新しい仲間を迎えて

入所式を行いました

桜が花開き、小春日和の下、すずかけ福祉会も新年度を迎え、大山創太郎さん、幅上真樹さんの2名の仲間が加わりました。2人とも人とコミュニケーションをとるのが好きで色々なことに興味があり、好奇心旺盛です。そして、4月1日は入所式を開きました。3月頃からすずかけ共同作業所とさらんの仲間たちは当日に歌う唄の練習をしたり、プレゼントを作ったりと準備を進めました。

当日はご家族の方々にも出席していただき、和やかな雰囲気で行われました。恒例の「質問コーナー」は、事前に仲間たちから聞いてみたいことを募集し、「好きな食べ物」や「好きなテレビ番組」などについて質問しました。次にすずかけのいちごグループの仲間たちから入所を祝う言葉があり、より一層、お祝いムードが高まりました。主役の2人は前半は若干、緊張している様子でしたが、式が進むにつれて、少しずつ肩の力がぬけていき、終盤に仲間たちからお祝いのプレゼントをもらう頃には、表情も和らいでいました。最後は「ともだちになるために」の大合唱で幕を閉じました。

こうして、2人は社会人として第1歩を踏み



2人とも入所おめでとう！

出しました。現在、大山さんはすずかけ共同作業所、幅上さんはさらんとそれぞれに分かれて仕事や活動に取り組んでいます。ほとんどのことが初めてで戸惑うことも多いと思いますが、集団の中でさまざまなことを経験しながら、豊かで楽しい生活を築いていってほしいと思います。皆様からもうかがい温かく見守っていただき、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

(職員 野村)

すずかけホーム大地・すずかけホーム すばる完成！

すずかけで5番目、6番目にあたる「すずかけホーム大地」と「すずかけホームすばる」が3月末に完成いたしました。

今回のホームをつくるにあたって、仲間の性格や人間関係等を考慮し、どのホームにどの仲間がよいか職員間で議論を重ねてきました。実際に5月から新たなメンバーで新たな生活が始まり、不安や緊張を抱えつつも、実際に生活を始めてみると「楽しい」と顔が和らぐ仲間がいます。まだホームでの生活に慣れるのに時間がかかりそうな仲間もありますが、それぞれのペースで頑張っています。そしてそれを見守るホーム生活ベテランの仲間がみせる穏やかな表情が印象的です

今回のホーム建設のスタートは2013年夏に実施したすずかけ福祉会の将来構想アンケートにまで遡ります。アンケートに寄せられた、「安心して生活できるグループホームがほしい」という仲間、家族の思いを実現するために論議を重ね、具体化を進めてきました。完成までには、多くの手続きに時間が必要だったことや建築業界の人手不足から入札が難航し着工が遅れ工期が厳しい状況になるなど、頭を悩ませるトラブルが続出しました。そのような中、国、小牧市より補助金交付が決定されたことや、建築業者さんの精力的な頑張りで工期内の完成を見ることができると嬉しい知らせもあり、無事ホームが建設されました。

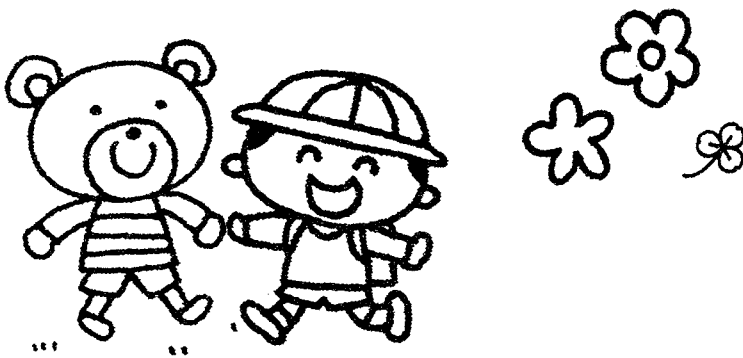
「みんなと暮らす」空間と「個」の空間を共有するのがホームです。今回のホーム建設にあたっては、その計画段階から実際ホームで仲間と過ごす職員も建設委員として参加し、設計にも現場の意見を盛り

込んで進めてきました。また他のホームに見学に行き参考になることを学びました。日々のホームでの生活で感じる使い勝手等も委員会を出し合って生かしています。

特に今回のホームはトイレ、脱衣所、風呂、洗濯室を集中させることでプライバシーを確保しながらスムーズに暮らせる設計にしてみました。それぞれ仲間たちはストレスなく過ごせるホームになったと思います。今までのホーム運営のノウハウを生かしながら仲間一人一人が安心して暮らせるホームとなるよう、がんばっていきたいと思います。(ホーム施設長 光岡)



すずかけホーム 大地・すばる（手前）



年齢を重ねても自分らしい生活を

「ヘルパーステーションとなり」として



すずかけの仲間たちの高齢化が進んでいます。すずかけの樹で何回も取り上げていますが、65歳を過ぎると障害福祉サービスよりも介護保険サービスが優先されてしまい、今使っている支援や通っている場所に通えなくなり、今までよりもさらにお金が必要になってしまいます。所得が少ない障害を持った仲間たちが、65歳を過ぎて今まで以上に収入が増えるということは、ほぼ考えられないことです。4月から介護保険料が多く自治体で値上げをしました。もし優先されてしまえば、金銭面で苦しい生活になることが目に見えています。

すずかけでも、実際に介護保険の認定調査を受けた仲間がいます。幸い、今のところ当ではまる仲間はいませんが、体の不調や高齢化に伴う怪我や疾病などはこれから増えていくことが予想され、そのことで介護保険が適用されてしまうことも十分考えられます。介護保険優先の背景には、国の公的責任を後退、専門性の軽視、いかに福祉の予算を削るかというようなことが含まれているのです。

「となり」でも、仲間たちの高齢化で通院支援が一気に増加しました。白内障や緑内障での通院や、定期通院も休の不調から付き添いが不可欠になってきています。制度上、基本的に公共交通機関での移動になるため、巡回バスの本数が少ない小牧市では実

際はとても移動しにくい場合があります。自治体に働きかけたり、相談員やそれぞれの部署と連携を取らなければ実現しないケースがたくさんあり、このようなことから、障害を持った仲間たちが高齢になってもあたりまえの生活を…ということになります。今の社会福祉制度の実情だと思います。人手不足で厳しい現実ですが、このことを押さえながら仲間が自分らしく快適に過ごせるようこれからも進めていきたいです。

(ヘルパーステーション サービス提供責任者 森下)

新人職員の思い 大変さと嬉しさ

昨年の10月からすずかけ共同作業所で勤務している松浦英恵と申します。よろしくお願いします。4月からは月3回程度、ホームに泊まることになり、今までは日中の様子しかわからなかったのですが、一緒にホームで生活すると、仲間の夜の過ごし方、朝の様子も分かるようになり、発語のない仲間の反応が、以前よりはわかるようになったと思います。

私は一日仕事を頑張っているいちごグループの担当になり、各自の仕事の役割を話し合いで決めています。発言の多い仲間が優先になりがちで、みんなの意見を平等に聞く難しさを感じています。

私は以前介護の仕事をしていたので、障害のことなどわからないことばかりですが、先輩職員に教えていただいて、成長していきたいと思っています。(職員 松浦 英恵)

★ひょうたんモニュメント

さらんでは久々の創作活動をしました。地域の方との交流で、ご近所の方からひょうたんをゆずっていただき、絵の具で色付けました。どの人も集中して取り組んでいて、ひょうたんのおしりから絵を塗ったり、真っ黒に塗ったり、思い思いの作品を創っていましたよ。

★かたつむりをつくったよ

すずかけでも梅雨が近づいてきたのでおひさまグループは創作活動でかたつむりをつくりました。毛糸の色を選んで紙にぐるぐると巻きつけました。顔は自分で描き、個性あふれるカタツムリの出来上がりです。完成してにっこり笑顔の仲間もいましたよ。ほっとグループではてるてる坊主をつくりました。

★ひまわりうえたよ



すずかけでは、フェンス近くの花壇にひまわりとマリーゴールドをうえました。仲間が交替で水やりをしています。大きな花が咲くといいな！

★署名にご協力ありがとうございました。

昨年11月頃より、次きようさん国会請願署名にとりくんでまいりました。皆様のご協力ありがとうございました。11月号に同封させていただき、ご返送下さった方もいらっしやいます。

すずかけ実績

署名 2109名

募金 59500円でした。

5月24日の国会に提出いたしました。

★新人職員入りました。

4月より2名の新人正規職員を採用しました。大学を出たばかりの若い職員が入ったので仲間も（職員も！）なんだかうキウキしています。皆さまどうぞ宜しくお願いいたします。



編集後記

今回、「初」の編集作業をいたしました。前回、「新人職員の思い」という題で初めて寄稿したばかりですが、初めてというのは何事も緊張します。また、良いものをつくりたいけど、力不足でなかなか完成に近づけませんでした。生みの苦しみということはありませんが、加えて、私自身あまりパソコン作業は得意ではないので、そういった意味でもこの機会に機関紙づくりの難しさを実感しました（笑）。

今回編集長をして思ったのは、仲間の喜びを支えていくうえでの大変さや困難に対して、職員としてどう向き合えばよいのかという点です。今月は新ホーム完成という記事がありました。その一つをとっても制度上の制約、工期の遅れなど、さまざまな困難に立ち向かってきた経過があります。「命」を守る仕事の責任と重さを改めて考えさせられるとともに、私自身も知らないことばかりで、日々勉強して、力をつけていかなくとは思いました。仲間たちとともに、私自身も人生を充実させていきたいと思います。（N・Y）